

**製品名: ITK (14Z13) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe12792**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | 組換えウサギモノクローナル抗体  |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IP  |
| 反応性    | 人間   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | モノクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:1000-1:5000,IP 1:20-1:50 |
| 分子量  | 72kDa                         |

**抗原情報**

|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | ITK  |
| 別名           | EMT; Homolog of mouse T cell itk/tsk; IL 2 inducible T cell kinase; Itk; Kinase EMT; LPFS1; LYK; PSCTK2; T cell specific kinase; TSK; Tyrosine protein kinase ITK/TSK; |
| 遺伝子 ID       | 3702.0   |
| SwissProt ID | Q08881   |
| 免疫原          | ヒト ITK の合成ペプチド   |

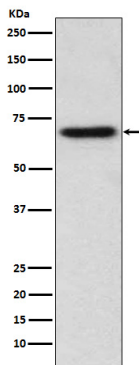
## 背景

インターロイキン2誘導性T細胞キナーゼ (Itk、Emt、または Tsk) は、非受容体型タンパク質チロシンキナーゼの一種です。Itkファミリーには、Tec、Btk、Rlk、Bmxが含まれ、いずれも共通の構造 (アミノ末端 PH ドメイン、Tec 相同ドメイン、SH3 および SH2 ドメイン、そしてカルボキシ末端キナーゼドメイン) によって定義されます。Tec、Rlk、Itk は T 細胞に発現し、T 細胞受容体 (TCR) の活性化に応じて活性化されます。適応免疫応答の調節に重要な役割を果たすチロシンキナーゼです。従来型 T 細胞および非従来型 NKT 細胞の発達、機能、分化を制御します。抗原提示細胞 (APC) が T 細胞受容体 (TCR) を活性化すると、一連のリン酸化反応により、刺激を受けた TCR 受容体近傍の細胞膜に ITK がリクルートされ、LCK によってリン酸化されます。リン酸化は ITK の自己リン酸化と完全な活性化をもたらします。活性化されると、PLCG1 がリン酸化され、このリパーゼが活性化され、その基質が切断されます。次に、小胞体は細胞質にカルシウムを放出し、活性化 T 細胞核活性化因子 (NFAT) が核に移行して転写機能を果たします。2つの必須アダプタータンパク質、T 細胞活性化リンカー/LAT タンパク質と LCP2 をリン酸化します。その後、VAV1 などの多数のシグナル分子がリクルートされ、最終的にリンフォカイン産生、T 細胞の増殖および分化につながります (PubMed:12186560、PubMed:12682224、PubMed:21725281)。 $\gamma\delta$ T 細胞における TCR を介したカルシウム応答に必須であり、未熟  $\gamma\delta$ T 細胞の Vgamma2 陽性サブセットにおけるトランスクリプトームシグネチャーの調節にも関与している可能性があります (類似性による)。TBX21 の「Tyr-530」をリン酸化して、GATA3 との相互作用を媒介します (類似性による)。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



Jurkat 細胞溶解物における ITK 発現のウェスタン ブロット分析。